

「福岡・釜山圏における
日常交流圏の形成に関する研究」
シリーズ No 3

釜山における日本建築物等の 利用実態と評価に関する研究

—報告書—

2008年3月

財団法人 福岡アジア都市研究所

釜山における日本建築物等の利用実態と評価に関する研究 目 次

第1章. はじめに

1. 研究の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
2. 背景・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
3. 報告書の構成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

第2章. 日韓の歴史と釜山の都市計画

1. 釜山市と福岡市の関係・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
2. 釜山における日韓近代の歴史・・・・・・・・・・ 5
3. 釜山の都市計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

第3章. 日本建築物等の利用実態

1. 日本占領地のまちづくり「コロニアルタウン」の特徴・・・・・・10
2. 日本建築物等の特徴と利用実態・・・・・・・・・・11

第4章. 保存運動と登録文化財制度

1. 日本建築物等の保存運動・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
2. 登録文化財制度・・・・・・・・・・・・・・・・・・19

第5章. 日本建築物等の評価

1. 日本建築物等3つの評価—概要・・・・・・・・・・25
2. 保存運動から見えてきた具体的な評価・・・・・・・・・・26
3. 登録文化財制度から見えてきた具体的な評価・・・・・・・・・・26
4. 日本建築物の魅力からの評価（木浦の事例）・・・・・・27

第6章. まとめ—日本建築物を軸とした日韓交流活性化のために—

1. 三つのポイント・・・・・・・・・・・・・・・・・・29
2. 釜山市中区日本通り構想について・・・・・・・・・・30
3. 日本建築物等を巡る社会実験について・・・・・・・・・・31

第1章. はじめに

古代より海に開かれた日本の港湾都市福岡市から、海を隔てて約 200km の地に異国の港湾都市韓国釜山広域市がある。日韓は、第二次大戦後から約 60 年を経た今でも一般的には「近くて遠い国」と印象が根強いが、ここ福岡市においては、博多港、釜山港を主にした日本人と韓国人のたくさんの人々の往来を目の当たりにすると「近くて近い国」という印象を強く受ける。(2007 年の福岡・釜山間の往来人数は、船舶、飛行機を併せて約 100 万人に達する)

最早、日韓の特に福岡・釜山間においては、国内旅行感覚で気軽に行き来できる日常交流圏域の感がする状況である。最近の韓国では、1997 年のアジア通貨危機を経験しながらもその後の急激な経済の発展により、都市部を中心に益々盛んな開発、再開発が行われ都市の発展が進んでいる。一方、都市発展が目に着く中、地道ではあるが遺跡、建築物、古式芸能・芸術などの有形・無形の歴史、文化を後世に伝えるために保存、保全していく方法や試みも進められている。

現在、韓国においては日本が占領していた時代（1910～1945）に建設された建築物や土木構造物など（以下、日本建築物等という）を文化遺産として残そうという動きが起こっている。一方、日本では「三丁目の時代」といわれる人情や隣人関係、コミュニティが自然に行われていた時代を懐古する動きが起きている。しかも、この基盤となっているのは、昭和時代に建てられた日本建築物等の存在によるところが大きい。

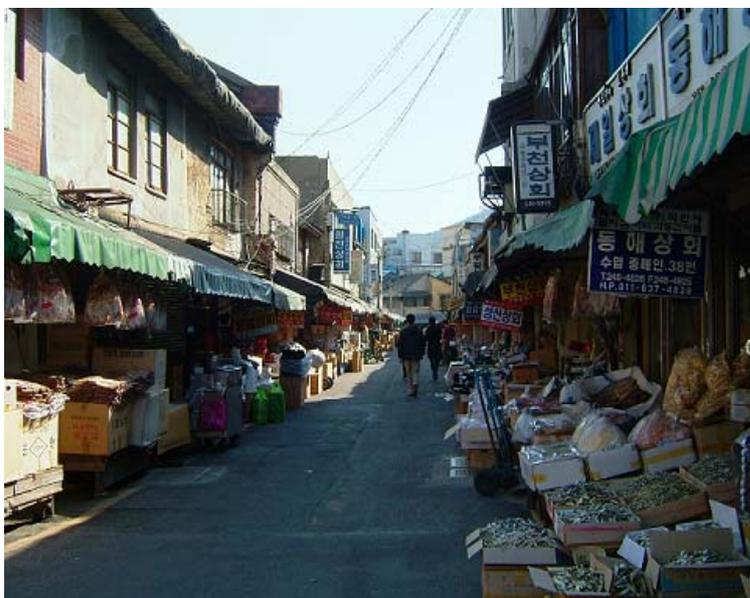


写真1-1昭和時代を懐古させる「チャガルチ乾物市場通り」

なぜ今、日本建築物等の存在が、両国でクローズアップされ、なくてはならない都市空間、後世に残したい景観として注目されているのだろうか。日本でも時代の変遷とともに過去の建築物等の大半が失われてきつつある中、懐かしい昭和の町、人情の町を構成する建物や町並みが「近くて遠い国」といわれる韓国には現存しているのは両国民に何かを語りかけているのではないだろうか。

特に、福岡市民においては、わずか 200km 先に行けば日本でも失いつつある空間が両国の共有できる空間として存在し、例え建物に対する思いは違おうとも双方の市民が体験で

きる共有状況にあるのである。

この研究では、福岡と姉妹都市であり歴史上もなじみが深い釜山市に焦点をあて、日本建築物等の利用実態調査から韓国社会における日本建築物等の評価を考察する。

できれば、来韓する日本人も本研究による評価を頭の片隅にでも入れて日本建築物等や街並みを眺めて見て欲しい。そこでは、日韓の歴史を体験した人々と日本建築物や街並みが迎えてくれるだろう。単に懐かしむだけではなく、もし可能であれば住人や近所の方と現存している日本建築物等の価値を語り合うことができるようになれば、さらなる日韓交流の活性化「福岡・釜山の日常交流圏形成」につながると考える。

1. 研究の目的

福岡市の姉妹都市、韓国釜山市には、今もなお日本の植民地時代を思い出させる日本人の占領政策によって建てられた建築物、土木構造物などが現存している。一般に韓国人にとって日本建築物等は屈辱的な支配の象徴と見なされ、終戦後には大半が破壊されたと考えられている。しかし、寺社以外の長屋、店舗、邸宅、官庁、銀行などの一部においては、破壊をまぬがれ、改造や用途変更などを繰り返しながら、現在でも住居、店舗及び資料館などの利用がなされている状況である。

本研究では、1945年の終戦後から60年余り経った今、日本の占領時代に建てられた日本建築物等が韓国社会においてどのような理由で残され、利用（使用または保存）されているのか、釜山市に現存する日本建築の利用実態を調査し、釜山市民が行った保存運動や文化財庁が行っている登録文化財制度などから、釜山市民、韓国社会における日本建築の評価を考察することを目的とする。

2. 背景

韓国では、近年の急激な経済発展や国際化、研究者の世代交代などを背景に、日本建築物等を文化遺産として見直そうという動きが起こってきている。（次頁新聞記事参照 出典：西日本新聞 2005.11.28 朝刊から抜粋）

また、2001年には文化財庁が従来の「指定文化財制度」をより改良した「登録文化財制度」をスタートさせたことも一因となっている。中区中央洞から光復洞にかけて、南浦洞に至る日本建築物等が現存して、日本人がよく泊まるホテルやショッピング、食堂などの近辺の通りを日本人通りとして整備しようとする動きが地元市民の賛否両論の中、中区や釜山市役所では検討されている。（P31：釜山広域市中区地図参照）

日本建築物等を近代建築の文化遺産として見直すきっかけになった要因をまとめる次のようになる。

（1）朝鮮総督府（撤去当時は国立中央博物館）の撤去

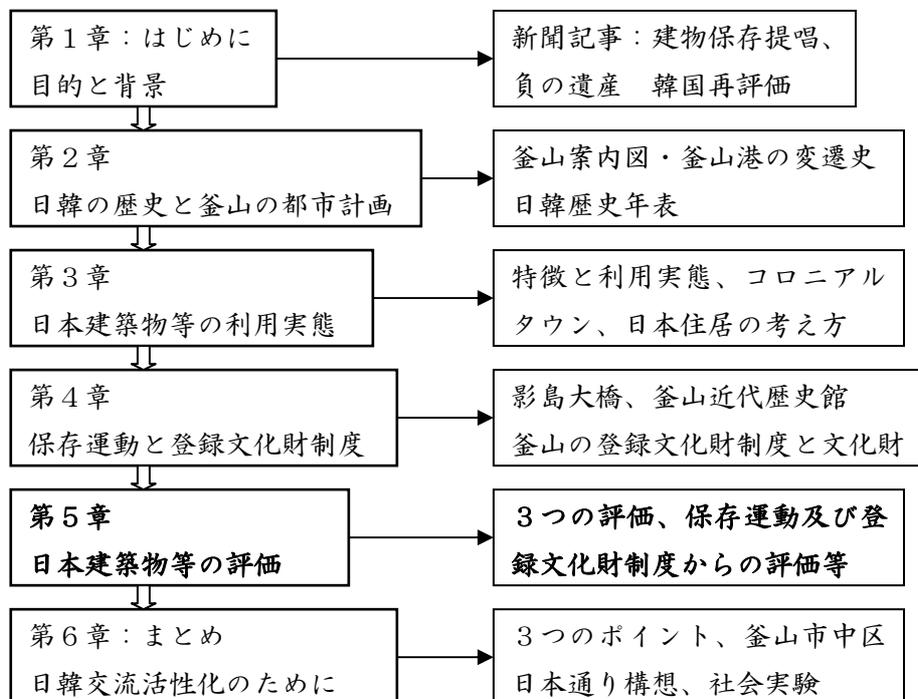
朝鮮総督府は当時の最高の建築技術による石造建築物で撤去か保存か論議を巻き起こしたが、結局、「日帝の残滓の一掃」という意見におされ撤去された。しかし、逆に優れ



写真 1-2 なぜか懐かしいチャガルチの日本家屋

3. 報告書の構成

本研究は下記のように進める。まずは、研究の目的と背景を述べた後、釜山の日本建築物等の現況を理解するため、近代における日韓の歴史と釜山における日本人が作成した都市計画の概要を説明し、日本建築物等の利用実態を日本人が占領政策時に行ったまちづくり（コロニアルタウン）の特徴、日本建築物等の種類、用途と利用状況を述べる。そして、市民の保存運動、登録文化財制度を経て、日本建築物等の評価について述べるものとする。



第2章. 日韓の歴史と釜山の都市計画

1. 福岡市と釜山市の関係

福岡市と釜山(プサン)広域市は、行政交流都市としての過去 18 年の実績に基づき 2007 年 2 月 2 日、吉田宏福岡市長と許南植(ホ・ナムシク)釜山広域市長が列席する中、姉妹都市提携の調印式を釜山広域市庁にて執り行った。これにより、共に港湾都市であり、アジアのゲートウェイと呼ばれる両都市の連携は、国際的な都市間交流を名実ともに現実化し、「交流」から「協力」への新たな局面を迎えることになった。

両都市は、玄界灘を挟んで約 200km と地理的にも近く、飛行機で約 50 分、高速船でも約 3 時間の距離にある。こうした近接性を反映してか、1964 年(昭和 39 年)の両都市における青年会議所の姉妹提携以降、多くの民間団体が姉妹提携するなど、様々な分野で活発な交流を展開している。社会の国際化、成熟化を背景に両都市間を往来する人口(2007 年約 100 万人)は順調に伸びてきており、国家の枠を越えた交流が益々盛んな状況にある。今後さらなる連携を深めるためには、経済・文化・スポーツ等の交流を積極的に推進していくとともに、両都市が抱えている様々な課題を協力して解決することが望まれる。



2. 釜山における日韓近代の歴史

釜山における日韓の関係は倭館の時代から、租界地、日本人の都市計画、植民地時代、朝鮮戦争を経て日韓国交正常化を受け現在に至っている。

(1) 倭館時代—13 世紀～19 世紀

倭館とは日本人が出入りしながら貿易できるよう許可した開港地の館宇(居住地)のことを言い、朝

図 2-1 韓国全図と釜山広域市の位置 鮮王朝の太宗王 7 年(1407 年)、富山浦(今の佐川韓洞)と齋浦(今の鎮海の熊川洞)に日本海賊への柔和対策の一つとして設けられた。釜山には当初、影島、豆毛浦、草梁、龍頭山倭館の 4 カ所があり、そのうち、今の東区水晶洞にあった豆毛浦倭館では、火災や、地形的な軍事上の問題から防災に不備なため、1678 年に今の龍頭山公園の下にある東光洞、光復洞の一带に建てた草梁倭館へ移動している。

また、朝鮮王朝初期の釜山は行政区域上には蔚州郡の属県で海軍の要衝の地であった。以後 1547 年に日本の使者が往来する道の要所であることを考えて東萊都護府(行政上には慶尚道に属するが独自の行政、司法、軍事権を持つ特別市の概念)に格上げされた。釜山という地名は今の東区佐川洞の一带を囲んでいる山の昔の名称といわれる。

(2) 租界地時代—19 世紀～20 世紀初頭

その後、1876 年 2 月 11 日江華島条約のための日朝会談を経て、2 月 27 日 12 款となっ

ている日朝条約が締結され釜山は租界地として開港された。開港以後日本人の釜山への移住が急に増え、1876年当時の対馬からの約100人が草梁倭館に移住したのを皮切りに、1880年には約2,000人、1900年には約6,000人、韓国併合時の1910年には約22,000人となった。

当時の日本は草梁倭館11万坪の外にも絶影島（今の影島）、大庁洞、保守洞、大新洞、富民洞一帯と瀛州洞、草梁洞、水晶洞、佐川洞、凡一洞一帯などのたくさんの土地を買い集め1905年には約540万坪も持ち、ほとんどの釜山の一等地は日本人が持ち主であった。

（3）占領地時代から朝鮮戦争—20世紀初頭～中期

1910年8月29日韓国併合の条約が結ばれて朝鮮は日本に統治権を奪われた。その時慶州南道の道庁は晋州に置かれ、釜山は釜山府となって昔の東萊府の一帯を治めることになった。また、都市の発展を促す交通機関の建設も顕著であり、日韓を繋ぐ交通として陸上では、1905年1月1日に釜山の草梁からソウルの永登浦まで京釜線の鉄道が敷かれた。また、海上では、下関と釜山をつなぐ関釜連絡船が運航を開始し、当初は山陽汽船株式会社の老岐丸だけで毎日の運航はできなかったが、11月の対馬丸の就航により、日本の東京から下関を経て釜山、ソウルまで一枚の切符で、往来が毎日できるようになった。1910から1945の日本占領地時代を経て、大戦終戦後に朝鮮は開放期（光復）を向かえることになったが、1953～1956の朝鮮戦争により、38度線を境に南（大韓民国）北（朝鮮民主主義人民共和国）に分断された。

（4）まとめ……そして現代へ—20世紀中期～21世紀初頭

日韓の歴史における韓国釜山と日本の関係は、韓国の三国時代から高麗王朝までは、国家的な公式交流もないまま日本の倭寇による侵入の歴史であったが、朝鮮王朝に入ってから、釜山が日韓政府間の外交と貿易の中心地の役目を行い、19世紀中頃からは日本人たちが釜山にたくさん住むようになったため日本文化が一番多く残っているところとなった。

1965年の日韓国交正常化を経て、新しい友好と交流の時代に入った現代においては釜山と福岡の連携が益々密接になり、今後は福岡、釜山を繋ぐ圏域が「日常交流圏」として、日韓間の真摯な和解と交流の舞台となることが望まれる。

3. 釜山の都市計画

釜山の都市計画は、欧米などの列強に対する日本の大陸進出の基地を造ることを目的として計画され、8.15解放（世界大戦後）と6.25戦争（朝鮮戦争後）を通じて流入した人口の利活用と現存していた港湾を輸出主導型の国家戦略に積極的に活用することによって行われたため、釜山の近代的な姿は奇形的な特性を備える以外になかった。

現在の釜山中区、東区、西区を中心に東菜区を含めて、1905年には日本人により都市計画図が作成され海岸地の計画的な埋め立てを行いながら、現状の平坦部を中心に計画が実施された。30万人都市を目途に道路、鉄道、橋梁、電気、上下水道、官公署、学校（小・中・高）、幼稚園などの公共施設、寺社仏閣、金融機関などを配置し、都市の骨格であるインフラを整備した。

計画にあたっては、日本の信仰の源である神社を海岸が見渡せる風光明媚な位置に配置し、東西にお寺（東本願寺、西本願寺）を配置した。

都心部には、路面電車も整備され、離島であった影島に釜山大橋（後の影島大橋）が架かると路面電車も延伸され走るようになった。その後、影島も都心部の市街化区域に取り込まれ日本の占領時代末期には約22万人の人口を有し、そのうちの半分は日本人が占めたといわれる。日本人の兵員の慰労のために温泉を掘り、緑町といわれた遊郭も設けられた。東菜区の温泉には、中区から鉄道を整備し都心部とつないだため、東菜温泉は一大リゾート地となった。

都心部には、幅員の広い主要道路を配し、碁盤目上に一般道路を整備した。路面電車が



走り、バランス良く官公署や学校等の公共施設が配置され、韓国初の幼稚園の設置、また、西洋式オフィスビルには釜山初のエレベータが設置された。

日本の金融機関、日本人の財産家による土地の買収や電気、上下水道などの整備が行われ都市としての骨格が形成されて行った。しかし、公共料金の負担、電車代金などの費用が生じたため、支払いに窮した地元住民は次第に長年住んだ土地を離れ山手や島の方に追いやられる結果と

図2-2 釜山広域市区及び郡位置図

なった。よって釜山にある一等地はほとんど日本人が住むようになっていった。

しかし、36年に渡った日本の占領時代が終わると毎日の参拝を強制された恨みのシンボル「神社」、「寺」の破壊が一斉に始まった。また、破壊を免れ所有者を失った日本建築物（住宅、店舗、公共施設、銀行など）は、



大半がアメリカの管理下で釜山市や釜山市民に払い下げられた。今でも住宅は日本の占領時代を物語る「敵産（チョクサン）住宅」と住民から呼ばれている。

1945年の終戦後における時勢の混乱、在日朝鮮人の帰国による人口流入、無秩序な開発や朝鮮戦争（1953～1956）によるソウルを中心とした北部からの大量の人口流入により、大半の都市計画が破壊され都心部の一部に名残りを残すのみとなった。

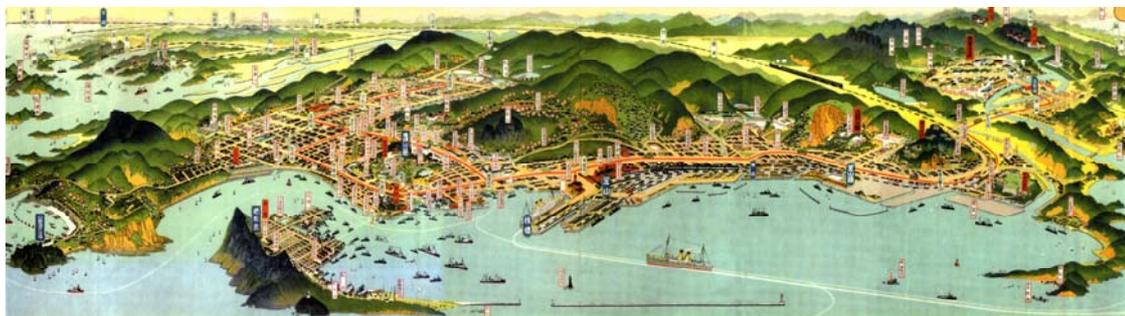
写真2-1 都市計画の残像を残す中区



図 2-3 釜山案内図（都市計画図を元に書かれた俯瞰図(1915~20年頃)提供：九大韓国研究センター）

釜山港の変遷史

1929年 釜山港のようす



2007年 釜山港のようす



写真 2-2 釜山発展研究院 院長 金英三 2007. 4. 17 福岡アジア都市研究所特別講演会「釜山発展のための新たな都市計画」資料より

以下、福岡及び釜山に関する日韓関連の歴史を朝鮮時代から現代に至って一覧表で整理する。併せて出来事Ⅱにおいて、日本建築物等の歴史を追ってみることとする。

表 2-1 福岡、釜山に関する日韓関連の歴史年表

時代	年数	出来事 - I - (韓国を主とした日韓関連)	出来事 - II - (日本建築を主とする)
朝鮮時代	1392年 1443年 1592年～ 1599年 1876年 1879年 1894年 1895年 1897年 1909年	李成桂(りせいけい)が、高麗を滅ぼして朝鮮(チヨソン)王朝を興す。 民族固有の文字である訓民正音(ハングル)を創る。 豊臣秀吉による朝鮮侵入。2度。1592 壬辰倭乱(文禄の役) 1599 丁酉倭乱(慶長の役) 江華島条約 伊藤博文・朝鮮統監。日本保護国化。 東学革命が起こる。 日本、閔妃暗殺。 朝鮮の国名を大韓帝国とする。 安重根、伊藤博文射殺	釜山に倭館—対馬藩 1868 明治時代 釜山租界地 1894 日清戦争 1904 日露戦争 1905 釜山市都市計画
占領地時代	1910年 1919年 1929年 1945年	朝鮮が日本に併合(日韓併合へいごう)され、朝鮮王朝がなくなる。 皇民化政策、日本語常用、創氏改名、土地測量 3.1運動が起こる。 光州学生運動 日本の敗戦によって朝鮮半島が解放される。米ソ両軍の進駐によって国土が分断される。	日本統治時代(朝鮮総督府) 日本建築全盛期 1923 関東大震災 1929 東洋拓殖(株)釜山支店新築 1934 影島大橋開通 1941.12. 太平洋戦争 1945.8. 日本敗戦、日本建築の破壊始まる
現代	1948年 1950年 1965年 1998年 2000年 2002年 2005年 2007年	大韓民国(8月)、朝鮮民主主義人民共和国(9月)が樹立(じゅりつ)される。 朝鮮戦争(～1953年)が起こる。 韓国と日本の国交が正常化される。 10月 金大中・小渕会談日韓パートナーシップ 6月13-15、平壤南北トップ会談(金大中大統領、金正日総書記) 5-6月 サッカーWC、日韓共催 獨島・竹島問題、 朝鮮通信使400周年	〈朝鮮戦争特需〉 1962 指定文化財制度始まる 1965.6. 日韓基本条約・協定 1996 朝鮮総督府が撤去 2001 登録文化財制度始まる 2007.2.2 釜山・福岡姉妹都市締結、日本建築の保存気運高まる。

第3章. 日本建築物等の利用実態

1. 日本占領地のまちづくり「コロニアルタウン」の特徴

釜山における日本建築物等の利用実態を述べる前に、日本建築物等（日本式建築物や西洋式建築物）がアジアにおいて日本に占領された都市や町では、どのような景観の特徴を持ち、現況はどうであるかを整理する。

占領地支配によって形成された都市や町のことを一般的にコロニアルシティ、コロニアルタウンと呼び、その町並みを構成する日本式建築物や西洋式建築物を周囲の環境から分析する見方として同化と異化という考え方がある。そして、同化とは「周囲の環境になじみ調和の取れた景観の構成」を言い同化と埋没に分けられ、また、異化とは「周囲の環境と異質でなじみのよくない景観の構成」を言い異化と排除に分けられる。

現存する韓国における日本建造物は、本来的には韓国の町並みや景観など周囲の環境となじまない異化された景観であるといえるが、町並みが残る釜山のチャガルチ市場や国際市場、中央洞などの一部においては、逆に日本の昭和20～30年代を思い起こさせる懐かしい時代を残す景観がある。下記にコロニアルタウンの景観的特徴を表にて整理する。

表3-1 コロニアルタウンの景観的特徴

コロニアルタウンの分類	コロニアルタウン(占領地支配によって形成された都市や町)の景観的特徴	備考
一般的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支配国の論理が強要された都市景観。 ・ ホスト国の既存の景観とはまったく異質の不連続性を有する景観。 ・ ホスト国の文化は排除の対象となり、植民地都市にホスト国の要素が取り入れられる場合は、異国趣味による演出が施される場合に限定。 ・ 支配国民とホスト国民の居住地は隔離され、双方の文化が融合する機会は少ない。空間的にも景観的にも分離・隔離された。 ・ 支配国(本国)における建築を誇張。支配国文化の誇張。 	支配国；日本 ホスト国；韓国
朝鮮における日本	<ul style="list-style-type: none"> ・ 方格状地割と日本式建物の建設。 ・ 支配国である日本の建築様式に則った日本式建築物と、西洋式建築物から構成される。 ・ 西洋式建築物の多用。国家の優越性を誇示する手段は、自国文化の強調よりも西洋文化の受容と咀嚼である。 ・ 朝鮮に対する日本の優越を示すため、華麗で堅牢な西洋式建築物を配置する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 釜山、鎮海、郡山、木浦など ・ 朝鮮総督府、ソウル駅、釜山駅

出典：「韓国におけるコロニアルタウンの景観」須山 聡 参照

2. 日本建築物等の特徴と利用実態

(1) 日本建築物等の特徴

日本建築物等とは、韓国に現存する、日本の占領地時代に日本人が建造した建築物や土木構造物で占領地時代の象徴であり、都市の一部をなす景観構成要素及び都市の物理的な機能を担うインフラストラクチャでもある。民族の自由を奪った35年間（1910-1945）の単なる歴史的存在ではなく、日本建築を破壊することで忌まわしき歴史を消去すべきか、使用または、保存することで事実として記憶すべきか現在においても韓国人、韓国社会において評価され、利用される対象であるといえる。

(2) 日本建築物等の利用実態

釜山に現存する日本建築物等は、屈辱的な占領地支配の象徴でもあるが、一方では都市景観構成要素の一つでもあり、今なお都市の機能を担うインフラストラクチャーとしての役目を果たしている。日本式の木造住宅は、老朽化や再開発などにより、段々と少なくなっているが、あちこちに点在しており、現在においても大半が住居や店舗、倉庫などに使用されている。下記に日本建築物等の種類と利用実態について表にて整理する。

表3-2 日本建築物等の種類と利用実態

日本建築物等種類	特徴	当初の利用実態と構造	現況利用実態 (用途)
日本式建築物	日本在来の建築様式に則った日本式建築物。位置的な近接性から西日本の建築仕様が多い。	<ul style="list-style-type: none"> ・日本人居住者用の一戸建て住宅(邸宅、別荘を含む)や集合住宅(長屋)。 ・邸宅には上級官吏や企業の経営者、支配人などが居住。長屋には港湾労働者や商店の従業員などの中・低所得層が居住。 ・木造を主体とした店舗、倉庫など。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チャガルチ(店舗付き住宅) ・貞蘭閣(邸宅からレストラン) ・東萊別荘(別荘からレストラン)
西洋式建築物	近代化によって海外、主に西洋から導入された建築様式に基づいた西洋式建築物。国内外に対する威厳を表明	<ul style="list-style-type: none"> ・県庁、市役所などの官公庁施設、銀行、郵便局などの金融機関、駅などの公共施設。 ・石造、組積造、コンクリート造。木造、コンクリート混合構造。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東洋拓殖株式会社(近代歴史資料館) ・慶南道庁
土木建造物	都市のインフラである土木構造物	橋梁、トンネル等の建造物。石造、コンクリート造。	・影島大橋

(3) 日韓住宅の相違点と見分け方

韓国に建築した日本式住宅（韓国では日式住宅、敵産住宅とも言われる）とは、19世紀から20世紀前半まで朝鮮半島に移住する日本人の居住のために朝鮮半島に建築された日本式の住宅である。そのため、日本の高温多湿に対応した風通しの良い開放的で連続的な間取りで構成されている。一方、韓国では寒さ対策に重きをおいた各室が個室化された個別的な間取りで構成されている。また、住居内は、一般的に日本のタタミと庭が韓国のオンドルとマダン（中庭）と対比される。

①日本住居と韓国住居の違い

敷地と住居の関係を比較すると理解しやすい。日本は、道路から門、そして住居内の玄関を経て居室に入り、住居内での生活が主体である。庭は、樹木や花、小菜園などとして利用されており、隣地などの境界は低い植栽やブロック塀などで区画はするが開放的である。しかし、韓国では、敷地自体が住居の考え方で、隣地などの境界を高く丈夫な土塀と大門（デムン）で区切り、大門から屋内空間である。大門から庭（中庭、マダン）を通過して板の間（縁側、マル）を経て各部屋に入る構成であり、日本の玄関という概念はない。庭は、屋内の作業場という考え方である。

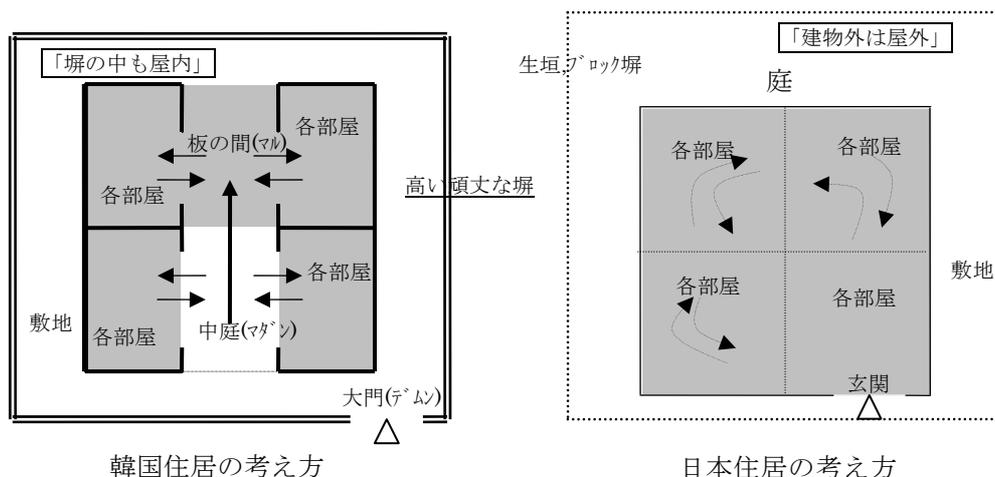


図3-1 日本住居と韓国住居概要図

②日本式住宅の見分け方

ここで、一般的な日本建築物を探す方法として外観からの見分け方について述べる。

1. 屋根瓦をラッピングしたものが多く、青い塗料を塗ったり、シートをかけたり、また、タイヤを置いて瓦の落下を防いでいる。老朽化がはげしい。
2. 窓や建具などの開口部が多く、玄関などが出ている、ポーチがある。外壁は、下見板張りであったり、その上に煉瓦を張ったりして壁をつくっている。開口部を塞いだような跡がある。
3. 長屋の一部を改造して外壁を張り、オンドルを設置している。その部分だけ仕上げが違っているのでわかる。



写真3-1 中区にある日本建築物の商店
(屋根にタイヤ、黒いシート、窓を塞いだ跡あり)



写真3-2 中区にある日本建築物長屋商店
(左の建物は屋根瓦を青い塗幕防水をしている)

第4章. 保存運動と登録文化財制度

釜山のシンボルと言ったら何であろうか、即座に浮かぶのは龍頭山公園にある「釜山タワー」であり、釜山市民や訪れる観光客の大半も、そう答えるであろう。釜山市中区にある「釜山タワー」は、釜山市のランドマークでもある。



写真4-1 釜山タワー

しかし、後世に残す歴史文化遺産のシンボルというならば何であろうか、日本の占領地時代を経て現在に至るまで単なる都市機能の基盤ではなく、日常生活の一部として市民の生活に密接にかかわったもの、まさしく喜怒哀楽を共に共有してきた「影島大橋（ヨンドダリ、当初は釜山大橋と呼ばれる）」と「釜山近代歴史館（旧東洋殖産株式会社釜山支店）」の2つの日本建築物等が突出しているといえる。これは、日本建築物等を近代文化遺産として認める韓国の登録文化財制度や市民運動からも間違いないであろう。この章では、2つの日本建築物等の歴史とそれを取り巻く市民や行政における保存運動、また、これら歴史文化遺産を保存するために制定された登録文化財制度についてまとめるものとする。

1. 日本建築物等の保存運動

2つの日本建築物等は、釜山の歴史を語るシンボルとして、一方は保存を求める市民、一方は撤去を求める市民と相反した動きの中で保存に至ったものである。一つは「影島大橋」で本土と島を繋ぐ橋梁の老朽化に伴う行政側の撤去・新設報道に端を発した市民の保存運動と二つは、行政側による「釜山近代歴史館」で西洋式建築物の保存のために行った歴史資料館への転用に対する市民の撤去運動について、有識見者のヒアリング及び文献、当時の新聞報道からまとめるものとする。

(1) 影島大橋

影島大橋は釜山本土と影島を結ぶ橋で、韓国では最初の連陸橋である。釜山側31mの跳ね橋部分が、釜山側を支点として80度の角度で跳ね上がり、船が跳ね橋部分を通る姿は釜山のシンボルとして市民に親しまれた。



写真4-2 影島大橋跳ね橋を表す看板

日本植民地時代の1931年から作り始め1934年に開閉式の橋として開通した。橋の長さ214m、幅は18mで、翌年からはこの橋を路面電車が南港洞まで運行を始め影島も釜山府の繁華街の一部になった。名称は1980年に新しい釜山大橋の開通にあわせて、釜山

大橋から影島大橋（通称ヨンドダリ）に変更された。橋のもと、釜山側にはチャガルチ埋め立ての記念碑、影島側には影島大橋記念碑が置かれている。毎日6回跳開部分が中空高く聳え立つ珍しい橋で、開通式の当日には跳開式大橋の威容を見物に6万の人々が集合したと伝わっている。橋は1966年までは跳ね橋の機能を持っていたが、橋の下を水道管が通ることとなり、跳ね上がらなくなった。しかし、今でも橋の釜山側には跳ね上げのギアが残された当時の面影を偲ばせてくれる。



写真4－3 現在の影島大橋

この影島大橋も築後70年以上になり、老朽化、安全性及び美観上の確保などの問題が生じてきた。今後の補強や改修工事に伴う莫大な維持管理コストを考え、近年には取り壊して新造する計画が持ち上がった。

影島大橋を保存するための市民運動の高まりは、釜山市が2000年に既存を解体して新しく鉄橋とすべきとの検討を行ったことが発端となった。保存を要求する市民の声が市民運動やシンポジウムの開催により広がり、2004年には地方文化財として指定することを中央文化財委員会が勧告したのをきっかけに、2年間余りに及ぶ議論が繰り返された結果、釜山市の文化財としての保存が決定された。

下記にその市民の保存運動から保存に伴う計画、文化財委員会の動きについて報じた新聞記事を掲載する。

撤去－保存、2年余の論議に終止符、2009年6車線の跳開式に完工

釜山の象徴で、韓国現代史の痛みを抱えている影島橋が、往復6車線の跳開式（大型船が通ることができるように開く機能を備えた橋）として再び生まれ変わるようになった。

釜山市文化財委員会は22日、委員20名の参加による全体会議を開き、影島橋を釜山

市指定の記念物（56号）及び保護区域として指定することを決めた。釜山市は来月14日ころに記念物に関する現状変更手続きを経て、現在の姿を最大限に生かす橋としての再架設工事に本格着手する計画である。

これにより、2005年10月、中央文化財委員会が影島橋の原形毀損を懸念して、地方文化財指定を勧告してから後、2年間余りにわたった影島橋の原形保存及び再架設論議に終止符が打たれることとなった。

この日の会議で文化財委員は、影島橋を既存の往復4車線から6車線と広くし、かつて釜山の名所として有名だった開閉機能を再び生かす方向で再架設を行うとした原則に合意した。また、現在の車線の両端に設けられている幅5.7メートルの歩道も復元することで大筋がまとまった。

また、委員は最近の調査の結果、開閉の際の全景を眺望することができる展望台の役割をしていた橋の足の石築がもともと精巧で、この記念碑が歴史的・建築史的に保存価値が高いとして、再架設時にも現在の状態で保存するよう強く言及した。

現状変更の手続きが終わればすぐに設計を行うという段取りも明らかになった。新しい影島橋の施工業者は釜山第2ロッテワールドの施工業者であるロッテショッピング。ロッテショッピングは橋を再架設した後、釜山市に寄付することになる。影島橋の再架設費用を負担する第2ロッテワールドの許可条件に従った形である。

釜山市は来年初めに工事に着工するため、往復4車線と歩道を含めた架設橋を現在の影島橋の横に位置する港の北側に設置する計画である。

残された課題としては、設計図面の作成過程において、原形保存に関連し、文化財委員と施工業者であるロッテ側がうまく合意に至るか否かだ。ロッテショッピングの関係者によると、「原形を生かすという文化財委員の決定事項を最大限に尊敬はするが、技術的に可能か否かは今後話し合っていく必要がある」とし、今後の調整の必要性をほのめかしている。この関係者はまた、「2009年末までには、かつての開閉時の姿を見るため市民が影島橋に集まったように、その姿が再現できるだろう」と述べた。

（釜山日報2006年11月23日より抜粋）

（2）釜山近代歴史館

急激な経済発展に伴う都会化で、日本の占領地時代を肌で感じるすることができる象徴物が段々と消えていっている。近代建築物を文化遺産として残すべきものは残す必要があるのではないかという市民の意識も芽生えているが、やはり直接の生活に影響を受ける地域住民たちにとっては、昔の東洋拓殖株式会社釜山支店であり、後のアメリカンセンター（米文化院）でもあった建物に対する怨恨は消えず、保存を促す釜山市利用計画に対する反発が起こった。

釜山市は、歴史、文化や建築学的に保護する価値がある近代建築物の撤去、解体を阻止し文化遺産として後世に残す政策を行っている。従って、昔のアメリカンセンターが過去

に東洋拓殖株式会社とアメリカ文化院が使った建物として後世の教育のために歴史博物館として保存しなければならないという立場を取っている。一方、中区庁や近隣商人を含む地域住民は衰退して行く商圈を回復するためにはこの建物を併せた一体の敷地を複合商業施設として開発しなければならないという立場で衝突している。

ここで、日本の占領地時代から現在に至る釜山近代歴史館の推移を下記に整理する。

表 4-1 釜山近代歴史館の推移

年数、年代	建物用途	内容
1929年	東洋拓殖株式会社釜山支店	朝鮮の経済を支配する目的で作られた国策会社の支店。土地買収と移民事業を行った。
1945年	アメリカセンター、アメリカ文化院	アメリカの海外広報の拠点。1999年4月の返還まで無償で使用され不平等で従属的な韓米関係を象徴する建物であった。
1980年代	同上（1982年韓国青年によるアメリカ文化院占拠、放火事件あり）	韓国の民主化要求が強まり、アメリカとの関係を再度検討する動きとアメリカ軍基地返還要求が高まると共に、この「米文化院」の返還を求める市民運動が起こる。
1999年～ 2003年	用途が決まらずに放置。 釜山市・市民団体と中区庁・地元商人などの住民の対決あり。	韓国政府に返還され6月に釜山市が引き継ぐ。建物の再利用か撤去して地域開発を行うか地域住民たちの反対運動が起こる。
2003年	釜山近代歴史館	日本の占領地における釜山の近代史と韓米関係史で構成された展示を行う近代歴史館として7月3日にオープン

次に、1999年の返還から2003年のオープンまでの主な住民運動を含む出来事を整理する。

①建物の活用アンケート調査：中区庁及び地元側

1999年11月1日～10日アメリカンセンター活用中区推進委員会（以下中区推進委）が効率的な活用案に対するアンケートを実施する。中区に居住する成人男女1086人を対象にアンケート調査を実施した結果、81.3%（842人）が解体撤去後の再建築を望んでいることを明らかにした。また、建物撤去の理由では、建物の崩壊を憂慮する回答が65.2%で一番多く、建物を新築する場合は市民団体会館と歴史文化館及びショッピングセンターを同時に入居させることができる複合商業施設を建てなければならないという意見が53.3%と多かったことを発表した。



写真 4 - 4 釜山歴史資料館（旧アメリカンセンター）

②建物安全診断：釜山市・市民団体側

釜山市は 8 月 7 日から 2 ヶ月間に渡ってアメリカンセンターの建物安全診断実施結果を発表した。持続的な管理と補修や補強が必要な C 等級に分類される物件であるが、一部の構造体に対する補修や補強を前提にすれば重大な欠陥はないので十分に使用可能な物件であると発表した。しかし、中区推進委は建物が 1982 年の放火事件で 2 階室内が全焼し骨組みだけが残った状態で高熱により内部骨組みである鉄筋が膨張し、耐久力が低下した可能性が高く安全性に問題があると反論している。

③工事及び住民説明会の中止

2001 年 7 月 23 日には、釜山市が改造工事のために現場に入るところをアメリカンセンター活用中区推進委員会会員と一部住民など約 300 人が奇襲デモを起こし工事中止を起こした。また、8 月 13 日には、釜山市が地域住民約 100 人を招待して開催した住民説明会も住民たちの反発で中止になる騒動があった。

背景として、2000 年 4 月現在、1962 年に文化財保護法が制定され国家または各地方自治体が指定文化財として保存している近代建築物及び歴史記念物は全国的に 94 件ある中、釜山には一件もないという事実がある。それは、行政や市民の近代文化遺産に対する考え方や保存認識が元来稀薄であることが要因となって、1960～1970 年代の急激な都市膨張以後に保存対象物の大部分を滅失し、しかも、個人が所有している記念物などは体系的な調査もなく未だに実態さえ把握されていない状況を引き起こしていることである。

結局、釜山開港期から占領地開放前後の韓国人の近代史である伝統と現代を引き継ぐ重要な歴史的建造物、近代文化遺産を総花的な都市開発のために滅失させることはできないという専門家たちの主張もあり、幾つかの要因がからまったが、釜山市及び市民団体にお

いても、この建物を日本の占領地時代の「東洋拓殖株式会社」であり、解放後のアメリカンセンター（アメリカ文化院）が使った建物であるという事実はそのままの形態で残して新たな歴史博物館として使うのが後世の教育のためにも優れた方策であるという認識のもと「釜山近代歴史館」として残されることとなった。

下記に釜山近代歴史館の歴史及び最近の市民の活動事例として慶尚北道浦項市の九龍浦に関する記事を参考に掲載する。

1. 釜山近代歴史館

（旧）東洋拓殖株式会社釜山支店（釜山市指定記念物第 49 号、釜山中区大廳洞）：これは苦難と戦いの連続だった 20 世紀の韓国史の縮小版だ。この建物は 1929 年、東洋拓殖会社の釜山支店として新築された。この釜山支店は、日本統治時代の威勢を背負った国策会社として朝鮮半島の人々を搾取した植民地収奪機構だった。

解放後、この建物はアメリカの駐屯地となり、朝鮮戦争（1950～1953 年）時にはアメリカ大使館として利用された。この後、アメリカの文化院として 1980 年代、不平等な米韓関係を表すものとして人々に認識され、反米運動の標的となったこともある。50 年間、アメリカが無償で使用したこの建物は、1999 年 4 月 30 日になりやっとなつて韓国政府に返還され、

2003 年 7 月 3 日、釜山近代歴史館として新しく生まれ変わったのだ。近現代史の苦難と試練、これに耐えつつ前に進んだ韓国人の戦いと努力が、この建物に凝縮されている。

2. 慶尚北道浦項市の九龍浦の住民運動（最近の参考事例）

慶尚北道浦項市（ポハンシ）の九龍浦（クリョンポ）の住民は 2007 年 5 月、市内のチョンロー角と 18 の日本式木造建築物を登録文化財に登録した。九龍浦のこの事例は、住民が、町を登録文化財にしようと自発的に動いた最初の例だ。九龍浦の登録文化財推進委の合同代表であるソインマン氏は、「日本式建物は、現在、すべて住宅として利用されている。しかし、日本統治下では薬局、旅館など、さまざまな用途で使用されていた。町が登録文化財となれば、当時の風景を再現し、観光地としてのジャパントウンを造る計画だ」と話している。（釜山日報 2007 年 7 月 19 日より抜粋）

2. 登録文化財制度

（1）指定文化財制度と登録文化財制度

【制度の内容】

登録文化財制度の導入にあたっては日本の例を参考にした。日本には 2007 年 5 月末現在、6,064 件の登録文化財がある。それに比べ、韓国はまだ始まったばかりであり、急いで登録を行っている状態である。7 月 11 日現在、韓国内における登録文化財は 340 件。そのうち、全南が 59 件で一番多く、釜山は 6 件、慶南は 34 件、蔚山（ウルサン）は 5 件。釜山や蔚山の場合、登録文化財の指定はまだ足を踏み出したばかりと言える。

登録文化財は、特に評価を得ないまま歴史の片隅に追いやられた近代文化遺産を保存する必要性から、2001年に制定された制度である。私有財産を保障しながらも近代文化遺産を保存できる。貞蘭閣も登録文化財として登録され、現在、保存に力を入れている。

表 4-2 文化財制度の種類と特徴

文化財制度の種類	制定日 主管庁	指定件数	特徴（相違点）	備考
指定文化財制度	1962年 文化財庁	2000年4月現在 94件	<ul style="list-style-type: none"> ・財産権の行使が制限され、当該建物のみならずその周辺の建物迄、建築制限が設けられるという規定 ・所有者の同意を特に必要としない指定文化財 ・文化財を厳選し、非常に価値が大きいと判断されたものに限り永久的に保存していこうという趣旨のもの ・所有者は、文化財として指定されればその建物や周辺の建築物まで、建築に関する高度な制限が設けられる 	所有財産権を侵害されることを嫌い登録を放棄している
登録文化財制度	2001年 文化財庁	2007.7.11 現在340件 韓国南部では全南が59件釜山6件、慶南34件、蔚山(ウルサン)5件	<ul style="list-style-type: none"> ・建築以来50年以上になる近代文化遺産の中で、保存及び活用する価値が大きい遺産を文化財として管理する ・私有財産を保障しながらも近代文化遺産を保存できる ・所有財産権を最大限保障して文化財修理費に関する支援、建蔽率と容積率の最大150%の保障、財産税の50%減免、相続税の徴収猶予、譲渡所得税の減免など、さまざまな利点もある 	<ul style="list-style-type: none"> ・所有者を中心とした文化財保護制度だが、所有者の認識が十分でなく、法的拘束力がないため、無断で撤回される事態を食い止めることができないという弱点がある ・日本の登録文化財2007年5月末現在、6,064件

従来の指定文化財制度は、財産権の行使が制限され、当該建物のみならずその周辺の建物にまで、建築制限が設けられるという規定に反発が大きかった。所有者の同意を特に必要としない指定文化財制度は、文化財を厳選し、非常に価値が大きいと判断されたものに限り永久的に保存していこうという趣旨のものである。

そのため、近代建築物の所有者は、文化財として指定されればその建物や周辺の建築物

まで、建築に関する高度な制限が設けられるなど、所有財産権を侵害されることを嫌い登録を放棄している。しかし、これは厳しい規制が多い指定文化財制度に限ったものである。

いわゆる指定文化財制度は、文化財を厳選し、非常に価値が大きいと判断されたものだけに限り永久的に保存していこうという趣旨のものである。

一方、2001年に制定された登録文化財制度は、建築以来50年以上になる近代文化遺産の中で、保存及び活用する価値が大きい遺産を文化財として管理するというものである。この制度は、所有財産権を最大限保障して文化財修理費に関する支援、建蔽率（建ペイ率）と容積率の最大150%の保障、財産税の50%減免、相続税の徴収猶予、譲渡所得税の減免など、さまざまな利点がある。

現行の登録文化財制度は、所有者を中心とした文化財保護制度であるが、所有者の認識が十分ではなく、法的拘束力がないため、無断で撤回される事態を食い止めることができないという弱点がある。したがって、登録文化財となりうる建築物の滅失を申告する際、最小限の事前審議を経るような制度の導入を検討する必要がある。所管の文化財庁は「文化財登録前での臨時保護法案など、近代建築文化遺産保存活性化のための方策を検討中である」と述べている。

（2）登録文化財制度の明暗事例

登録文化財の光として「松亭（ソンジョン）駅」のケースを紹介する。“「松亭（ソンジョン）駅に来る電車の時刻を問い合わせる電話が殺到し、写真を撮りに来る人もいる。登録文化財の指定を受ける前は考えられなかった。」と松亭駅のキムチョルヒョン駅長がこう話した。”という記事である。東海南部線の小さな駅である松亭駅は、2006年12月に登録文化財（第302号）となり、最近では観光名所となっている。文化財として知られるよう



写真4-5 松亭（ソンジョン）駅

になり、大企業の社内報用の写真を、と撮影に来る社員や写真愛好家もその歴史の姿を写真に残そうと訪れている。これを受け韓国鉄道釜山支所も松亭駅を観光名所として知名度を上げる方策を検討している。一つは2007年7月20日から8月15日まで、8つの列車を松亭駅に臨時停車させる予定としている。この期間には松亭を普通ならば通過する釜田～ソウル間のセマウル号の上り電車を4本、釜田～江陵（カンロン）のムグンファ号の同じく上り電車を2本、順天（スンチョン）～釜田（プジョン）のムグンファ号の上り下りを2本など、列車8本をソンジョン駅に停車させる予定である。これは、松亭海水浴場と松亭駅を観に来る観光客をねらいとしたものである。

登録文化財の影として「東萊別荘（トンネ別荘）」の事例を紹介する。「区役所、そして市役所や文化財庁から、登録文化財に関するメリットを聞くにつれ、乗る気になった。しかし、じっくり考え直してみると、登録をしないほうがいいかな、という気がしてきた。登録すれば財産権の行使に支障が生じるかもしれないし、人々が観光に来るかもしれない、煩わしい。その上、営業にも悪影響を来す恐れがある。」と 東萊別荘（釜山東萊区温泉洞＝オンチョンドン）の関係者はこう語っている。”という記事である。

東萊別荘は 2007 年 4 月 30 日に登録文化財として登録が予定されていたが、所有者がその後考えを改め、登録申請を撤回したケースである。それは、東萊別荘の一角が温泉 4 区域の再開発地区に含まれており、住宅組合との絡みなどから財産権の行使に支障を来すかもしれないとの判断からである。そこで、文化財庁は登録予備期間に所有者から文化財登録に反対する意向を受け、6 月に近代文化財文化委員会を開催した上で所有者の意見を受け入れ、登録から除外している。



写真 4-6 東萊（トンネ）別荘

東萊別荘は日本統治時に、釜山で最も裕福とされた日本人である迫間（ハザマ）源太郎の個人的な別荘として 1929 年に完工された。200 坪規模の広さで木造 2 階建て。ガラス窓と木造の外壁が昔の姿をそのまま残している。アメリカの支配下にあった時代には米軍政庁として、臨時首都であった時には副大統領の官邸として使用された由緒ある建物である。

東萊別荘は、1999 年にレストランとして生まれ変わっており、近代文化遺産である日本建築物が、再開発の計画のために登録文化財にはならないという残念なケースである。

また、他の地域でも登録予備期間に撤回された近代建築物が多くある。登録文化財に指定された場合、財産権に支障を来すのでは、と懸念する所有者が撤回に踏み切るのとのことである。下記に 2, 3 他事例を列記する。

【ソレ塩田の塩倉庫】

2007 年 6 月 4 日、京畿道（キョンギド）始興市（シフンシ）にあるソレ塩田の塩倉庫 40 棟のうち、38 棟が土地所有者によって一方的に登録撤回となっている。それは、文化財庁の文化財登録審議をわずか 3 日後に控えてのことである。

1930 年代に造られたソレ塩田の塩倉庫は塩田の昔ながらの景観を守っており、始興市は 2010 年まで塩田一帯を生態公園として計画しているため、登録文化財指定を推進してきた

が、この場所にゴルフ場を建設するという所有会社側が文化財指定を目前に登録撤回の意を伝えてきたのである。

【その他】

旧日本銀行鎮海（ジンヘ）支店は2005年8月に撤回している。また、1940年代に造られた慶南南海の韓国式家屋も2005年7月に白紙に戻している。韓国で初めて証券取引が行われたソウル市明洞（ミョンドン）にある大韓証券取引所は2005年10月に撤回している。さらに、ソウルのスカラ劇場も同年12月に撤回している。

（3）釜山の登録文化財

釜山には、日本の占領地時代に建てられた釜山臨時首都政府庁舎を始めとして、現在6件登録文化財がある。下記にその文化財の概要を紹介する。

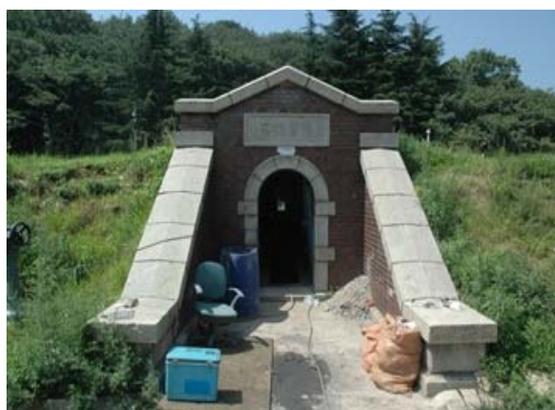
- ①日本統治時代の京南道庁として建てられた2階建てレンガ造りのルネッサンス建築である釜山臨時首都政府庁舎（西区富民洞＝プミンドン・第41号）緩やかな傾斜の朴工（パクゴン）屋根を、屋根右側部分に設置している。現在、東亜大学内に博物館に向けて工事中。



- ②1940年代の典型的な簡易式駅である松亭（ソンジョン）駅（海雲台区松亭洞＝ソンジョンドン・第302号）、保存により、駅で記念写真を撮る人など利用者が増えた。



- ③1910年に釜山に本格的な上水道の時代を用いたポクビョン山の配水池（中区大廳洞＝デチョンドン・第327号）



- ④1927年に日本の保安隊の建物として新築されたかつての**慶南商業高校の本館**(西区西大新洞・第328号)



- ⑤1932年に釜山で最初のエレベータが設置された近代オフィスビルの典型である**韓国電力中釜山支店**(西区土城洞＝トソンドン・第329号)もほとんど同時期に登録文化財となった。現在はエレベータは使用されていないが、屋上から港町や残存している日本家屋が眺められる。



- ⑥1939年鉄道庁長の官舎として建てられた高級な邸宅。釜山市東区水晶洞古館入り口のレストラン**貞蘭閣**(第330号)。

2階建ての木造和風建築物である。屋根は入母屋造りの日本瓦葺きある。室内の和室は、天井が高く畳が敷いてあり、昔の暮らしぶりが想像できる空間が今でも残っている。玄関前には和風の庭園があり、落ち着いた富裕層の佇まいを醸し出している。



第5章. 日本建築物等の評価

釜山に残存する日本建築物等（建築物、土木構造物）の評価については、大別すると下記の3つに整理できる。この章では、その定義を述べた上で「具体的に保存運動から見えた評価」と「登録文化財制度から見えた評価」について、事例を交えてまとめるものとする。また、個人が日本式建築物の価値に気づき築90年の邸宅をレストランに改装した木浦（モッポ）の最近の事例を記述する。

1. 日本建築物等3つの評価—概要

(1) 評価1：運命共同体的な価値

日本建築物等の評価としては、そのものに歴史的な価値があるかということと現在でもそれ以外になんらかの価値があるのかということが評価になると思われる。現在においては、単に日本が造った云々ではなく、構造、用途に関係なく、釜山市民の日常に関わりを持ち、建物の存在自体が人々の日々の暮らしを見つめてきた「運命共同体的な価値がある」と思われる。

(2) 評価2：生きた歴史教材としての価値＝観光史跡としての価値

住宅や店舗、公共施設、銀行などの建築物や橋梁、岸壁、擁壁などの土木構造物そのものの存在が激動の時代を共に過ごした証であり、人々が壊すこともなく使用し続け、また、保存運動まで起こして守っていること自体が「後世に伝える価値がある」という評価と思われる。特に影島大橋や歴史資料館は市民の歴史の一部を共有しているものであり、歴史的価値も利用価値、教育的価値も高いと評価される。

(3) 評価3：利用のための機能的価値

現存している木造家屋やコンクリート造のアパートの大半は、老朽化が激しく、安全性や見てくれも悪い。そのまま放置すれば、町並み形成や都市景観の要素にはとてもなりえないものである。ようするに日々の暮らしをたくましく送る市民にとっては、残ったものは使う、使えるものは何とかして使うというただ「利用のための機能的価値」という評価である。

しかし、住宅においては庶民の多くが、最低限住むための手入れを施し、四季を通じて暮らしてきた「楽しい我が家」で懐かしい空間でもある。得てして、こういった庶民の住宅、長屋などは、ある程度固まっていることが多いため、保存計画などをしっかり立てる機関があれば、通りを形成する「懐かしい空間」、「街歩きの路地裏空間」になりうる可能性がある。行政やNPOなどの組織が中心となって、ある圏域を指定し一体とした住居の改修や整備を行うならば、利用のための機能的価値から観光史跡としての価値が生じるであろう。

2. 保存運動から見てきた具体的な評価

釜山市民の歴史文化遺産のシンボルである影島大橋、釜山近代歴史館などの保存運動から見てきた「歴史的建造物」「近代文化遺産」としての評価について下記にまとめる。

(1) 日本建築物等は、釜山開港期から占領地開放前後の韓国人の近代史である**伝統と現代を引き継ぐ重要な歴史的建造物、近代文化遺産であると評価される。**

(2) 行政や市民においては、歴史的建造物、近代文化遺産に対する考え方や保存認識が元来稀薄であるため多くの日本建築物等を滅失してきたが、**正しい理解のためにも評価の対象である現存する日本建築物等が教材となる。**

<事例1>

日本の占領地時代のこの建物が「東洋拓殖株式会社」であり、解放後のアメリカンセンター（アメリカ文化院）が使った建物であるという事実をそのままの形態で残して歴史博物館として使うのが**後世の教育のためにも優れた方策であるという歴史的建造物、近代文化遺産としての評価。**

<事例2>

現在は住宅に使用しているが、日本の占領地下では薬局、旅館など、さまざまな用途で使用されていた町並が登録文化財となれば、当時の風景を再現し、例えば、観光地としての「ジャパントウンを造る」ことができるという**日本建築物等を活用した歴史的建築物等が観光名所に値するという評価。**

<事例3>

釜山の南西、巨済島から少し離れた加助島の沖合 1km に浮かぶ吹島に旧日本軍が建てた日露戦争戦勝記念塔が原型のままで残っている。2005年4月の竹島領有権問題を受けて、韓国の市民団体が巨済市と海軍に爆破を求めたが、記念塔の地元、加助島の住民約 500 世帯の多くが撤去反対を訴えた。それは、植民地支配の遺跡も韓国の消せない歴史として現地にとどめ教訓にしていくべきであるという理由である。**記念碑は生きた歴史教材としての価値だけでなく観光客誘致の対象としての価値が高いという評価である。**

3. 登録文化財制度から見てきた具体的な評価

特に評価を得ないまま歴史の片隅に追いやられた近代文化遺産を保存する必要性から現存する**日本建築物等を歴史的建築物等、近代文化遺産として評価する。**

<事例>

松亭駅のように登録文化財の指定を受ける前は考えられなかったが日本建築物等を歴史的建築物等、近代文化遺産としての関心から、電車の時刻を問い合わせる電話が殺到し、写真を撮りに来る人もおり、最近では**観光名所**となっている。

4. 日本建築物の魅力からの評価（木浦の事例）

前述のように、韓国では日本占領地時代の日本建築物は、常に「撤去」か「保存」かの議論の対象になっていたが、最近は文化遺産に指定されたりするなど、保存しようという動きも目立ってきている。なかでも全羅南道の木浦は、解放後（日本の終戦後）の経済発展が遅れたため、他の地域よりも日本建築物が多く残っているところである。

ここで紹介するのは、「幸せいっぱいの家」という名のカフェレストランである。元々は東洋拓殖会社の官舎であり、解放後（第二次世界大戦後）は地元の富豪一家が住んでいた木造住宅を譲り受け改装した事例である。

老朽化した建物を保存するには、それなりのお金がかかるが、飲食店としての再生は、日本家屋が生き残っていくための選択肢のひとつでもあり得る。また、この建物の横には、保存か撤去かで話題になっていた「東洋拓殖株式会社」の補修工事が完了し、「木浦近代歴史館」という博物館に生まれ変わっている事実がある。ここでは、このカフェレストランオーナーの意見と出典著者の意見から改装にあたっての日本建築物等の評価部分についてまとめてみる。

評価1. 木造家屋には魅力がある。

木造家屋（元の建物がもっている木のあたたかみ）に魅力がある。すべてがハンドイクラフトで味があり、庭木の配置もすばらしい。

評価2. 頑丈であり、仕上げが繊細である。

日本の建物だからという偏見はない。90年も前に建てられたとは思えない頑丈さがあり、しかも現代の建物にはない繊細な仕上げに驚きがある。

評価3. 用途変更により、再利用が可能である。

- ・日本人富裕層の邸宅からレストランへ改装。飲食店として再生する。
- ・会社建物から博物館へ。「東洋拓殖株式会社」から「木浦近代歴史館」に変更。

日本占領地時代の日本建築は、解放後「敵産家屋（チョクサン家屋）」と呼ばれ、韓国人に払い下げられた。日本家屋に住んでいる人たちの多くが「日本家屋は頑丈」だという印象がある。 出典：鄭銀淑 チョン・ウンスク HP より



写真 5 - 1 利用のための機能的価値 1 (老朽化が激しい木造家屋)



写真 5 - 2 利用のための機能的価値 2 (老朽化が激しいコンクリート造アパート)

第6章. まとめ ―日本建築物を軸とした日韓交流活性化のために―

本研究は、福岡・釜山圏における日常交流圏の形成につながる日韓交流の活性化の方策の一つとして行った。視点を釜山に残存する日本建築物等の実態調査と評価にあて研究を行ったものである。現在、釜山や他の地域においても残存する建築物は多々あると思われるが保存が決まっていないもの、利用されていないものについては老朽化の波は着実に押し寄せている。解体・撤去を免れるには保存、利用に対する評価を知っておく必要がある。

今回は釜山側の評価を3つにまとめ、釜山市民が行った保存運動や文化財庁が行っている登録文化財制度などから具体的な日本建築の評価を考察した。「伝統と現代を引き継ぐ重要な歴史的建造物、近代文化遺産であるとする評価」や「後世に残す生きた教材としての評価」や「頑丈で暖かみがある実用性やデザインからの評価」などの結果が現れた。

世代の移り変わりや著しい経済発展による余裕を鑑みても得てして好意的な評価が多かったと考察された。できれば今後は近くて釜山市との友好関係が深い福岡市民からの視点で評価できればと思える。最後に今後の交流活性化に必要と思われる3つのポイントと「釜山市中区の日本通り構想」の動向や、「釜山日本建築物等を巡る旅（社会実験）」について記載する。今後の釜山日本建築物等を軸とした両市の日常交流圏形成の展開に期待する。

1. 3つのポイント

(1) 韓国人への心情の理解

日本人は、韓国に残存する日本建築物等を見て昭和前半における「三丁目時代」を想起し感慨深げになると思われるが、それだけではいけない状況が少なからず存在していることを忘れてはいけない。近きゆえに日本に対する感情が複雑に絡み合う釜山においても、未だに日本の植民地時代の影を引きずっている人もいることを忘れてはいけない。まずは日本建築物等の背景にある韓国人の心情を理解することが大切であることは言うまでもない。

(2) 日本建築物等と日韓交流

日本建築物等を見て知ることをきっかけにお互いが日韓の歴史を知り、さらに釜山の歴史を知り、そこから韓国人と日本人の真の国際交流が始まる。けっして歴史に目を背けてはならない。お互いが日韓の歴史を理解して行動することから本当の交流は始まる。

(3) 新たな観光の切り口：観光案内士の育成

現在、若者だけではなく定年後を見据えて日本語を勉強するシルバー世代が出てきている。海を隔てて九州と向き合い、日本との交流が盛んな釜山では、国際行事やイベント会場で活躍する通訳ボランティアもシルバー世代の人気を集めている。釜山の隣、鎮海市においては、シルバー世代を含む100人程が鎮海大学の研修を経て市の観光案内士（慶南文化観光解説士）として日本人の観光客相手に活躍されている。これからは、釜山の日本建築物等を含む観光スポットを日本語で説明してくれる釜山市観光案内士や福岡の韓国に由来する遺跡を含む観光スポットを韓国語で説明するシルバー世代の出現を期待する。



写真6-1 慶南文化観光解説士と観光案内板。右は観光解説士認定証

2. 釜山市中区日本通り構想について

(1) 背景

釜山市中区は、江戸時代に対馬藩の日朝貿易の拠点となった「倭館」や日本の植民地時代の日本人居留地跡、料亭跡など釜山の中でも最も多くの日本の遺跡が残っている所である。また、国際市場、チャガルチ市場、釜山タワーなど数多くの観光スポットを抱えている。しかし、再開発に伴って釜山市の中心が東部に移動し、九州などからの日本人観光客の吸引力が低下してきている。さらに、釜山全体でも少子化やソウル周辺部への一局集中から人口が減少しており、観光が大きな産業である中区では、地元の地盤沈下を食い止めたいたい思いが切実である。

(2) 日本通り計画について

中区（李仁俊区長）において、日本の植民地時代の遺跡、建物を活用して当時の町並みを再現するイルボンヨリ（日本通り）を計画する。倭館跡周辺を日本人の郷愁を誘うような通りに整備し、九州など多くの日本人観光客を中区に取り戻す計画。（図6-1 図参照）

①問題点

- ・日本通り計画に対する市民アンケート（韓国海洋大金禎夏教授実施 2005）によると、日本通りをつくることに賛成は17%、反対29%と意見が割れ、反対が多かった。
- ・倭館跡の近くには、日本の植民地時代に独立運動へ資金支援を行ったアン・フィジェ（1885～1943）を記念する「白山記念館」があり、周辺住民から似つかわしくないという声が上がっている。

②結果—現在の状況—

アンケート結果や地元住民の反対の声も未だ根強く日本通り構想は、浮き沈みしている状況である。しかし、釜山市民においては、長い交流の歴史を持つ九州・山口に親近感を抱く人や知日派が多いのは事実であり、いずれ日本通りが現実化する可能性は高いといえる。

3. 日本建築物等を巡る社会実験について（別途参考資料参照）

(1) 社会実験の実施

中区釜山観光ホテルを中心とした仮称「日本人通り」から一日でどのくらいの日本建築物等（著名な物件や普通の住居）が見学できるか、下記メンバーのご協力により普通自動車と徒歩での実験を行った。

【メンバー】

韓国海洋大 教授 金 楨夏（自動車運転及び案内）
同研究室 大学院生 金 潤煥、韓 賢石
福岡アジア都市研究所 研究主査 小牧 重己 計4名

【日時・天候】

2007年11月2日（金）、10:00 から 17:30、快晴。

【タイトル・ルート】

「釜山日本建築物等街歩きルート」、ルート図は図6-1を参照のこと。

【タイムスケジュールと概要】

<午前>

- 10:00 影島ホテル前集合、スタート
10:20～28 影島大橋（柱脚旧式、現在補修中）見学 ①
10:35～11:00 チャガルチ長屋、乾物干し物市場（店舗付き住宅）映画「チング」の舞台となった ②
11:10 近代歴史資料館（東洋拓殖会社からアメリカ文化館）入館せず ③
11:20～12:00 竜頭山公園、釜山タワー（タワーから釜山の町並みを見渡す） ④

<午後>

- 12:05 旧幼稚園跡（釜山初）とその石垣 ⑤
12:15～12:50 昼食（元日本建築物から韓定食レストランになった店舗にて） ⑤
13:15～13:25 仮称日本人通り散策（釜山観光ホテル付近、日本語の標識多数） ⑤
13:35～13:50 チョンブンジャン、ソファンジャンアパート（釜山初のコンクリート造アパート）危険物に指定、当初の3階建てから4階へ増築 ⑥
14:00～14:15 慶南道庁（裁判所から東亜大学法科博物館となる）改修中
14:30～14:45 臨時首都記念館（元李承晩大統領官邸）
14:50～15:10 休憩、東亜大学前道路の屋台（アジュマ；元日本に住む敗戦後釜山へ）
15:20～15:45 貞蘭閣（邸宅をほとんどそのまま使用、韓定食レストラン）
16:15～16:45 韓国電力公社（韓国初エレベーター設置、B1～4階建て）
16:45～17:30 日本建築探し、日本式木造住宅らしいものあちこちに現存。
日本建築の見分け方1，屋根瓦をラッピングしたものが多い（青い塗布剤、シート、タイヤを置く）2．庇、屋根の波風板、下見板張り
17:30 終了 日没のため終了

(2) 社会実験ルート

①の影島大橋、②のチャガルチ、③の近代歴史資料館、④の竜頭山公園、⑤の旧幼稚園跡地、仮称日本人通り⑥のアパートから臨時首都記念館を経て貞蘭閣などを巡るルート。

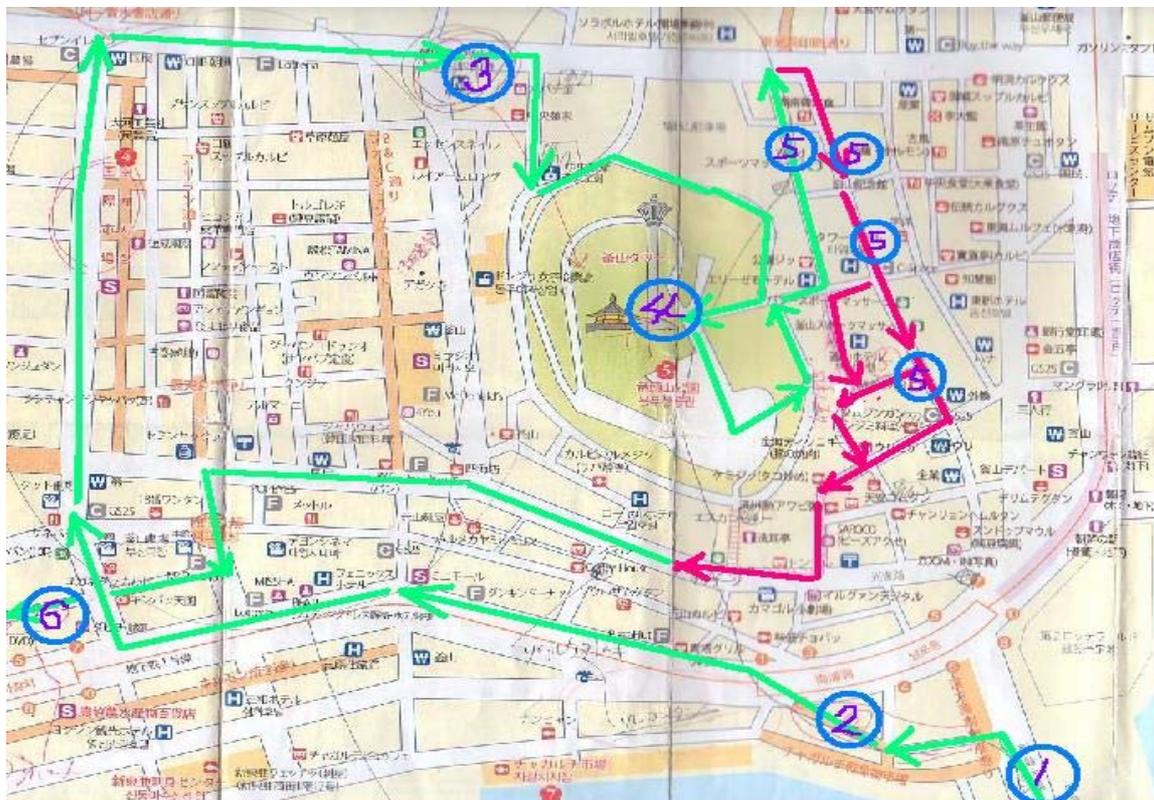
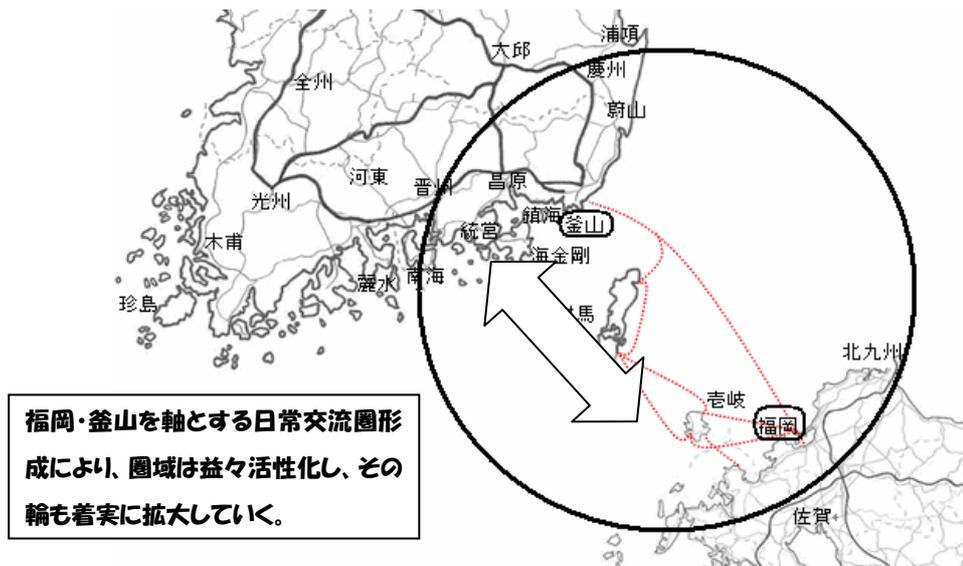


図6—1 社会実験ルート図（但し①～⑥まで、⑤が仮称日本人通り）

謝辞：本調査にあたっては、多くの方々にヒアリングや情報、資料提供に協力していただいた。九州大学韓国研究センター 松原孝俊教授、韓国日本大使館 菊池勇次先生、釜山発展研究院 琴性根（クムソンゲン） 前任研究委員の皆様方。そして、特に事前協議や現地案内（社会実験）、文献・資料に写真等の提供をいただいた韓国海洋大学 金楨夏（キムジョンハ） 教授と研究室の金潤煥、韓賢石、李宗炫、遠藤麻衣研究員の皆様方に心から厚く御礼を申し上げます。

参考文献

1. 「韓国におけるコロニアルタウンの景観」 須山 聡 （2005）
2. 釜山の日帝遺跡に対する現場論的考察 金楨夏 （2003）
3. 釜山の近代歴史建造物の実態と活用方法に関する研究 イ ドンヒョン （2003）
4. 韓国の「昭和」を歩く 鄭銀淑 祥伝社新書（2005）
5. 都市居住空間にみる異文化の共生 李賢姫 アジア太平洋センター16（2006）
6. 韓国動向第6号 福岡アジア都市研究所 （2007）
7. 朝鮮日報、釜山日報、西日本新聞各社記事、HP
8. 韓国観光公社、釜山広域市、プサンナビ HP



福岡・釜山日常交流圏域図

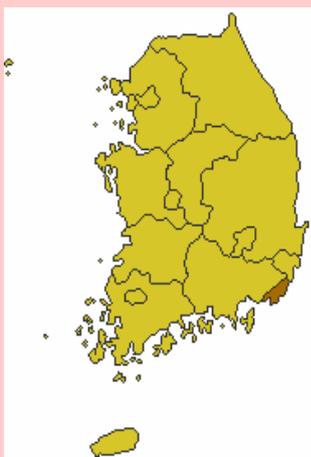
韓国・釜山の日本建築 2007. 11



韓国・釜山市の地図

韓国全図

釜山全図 (区)



釜山の日本建築巡り ミニ社会実験

日本建築を巡る小旅行

(釜山市シーニックバイウェイルート及び街歩きルート)

1) 社会実験「一日コース」

メンバー 4名

韓国海洋大

教授 金偵夏 (自動車)

同研究室 大学院生 金潤換

韓賢石

URC 研究主査 小牧 重己

日時: 2007年11月2日(金)

場所: 釜山市影島区、中区、西区

※日本建築(主に日本占領時代に建造されたもの)

日本式建築物

長屋、一戸建て住宅、邸宅、店舗等

西洋式建築物

官公庁施設、駅、銀行などの金融機関等

土木構造物

橋梁、上下水道施設、トンネル、擁壁等

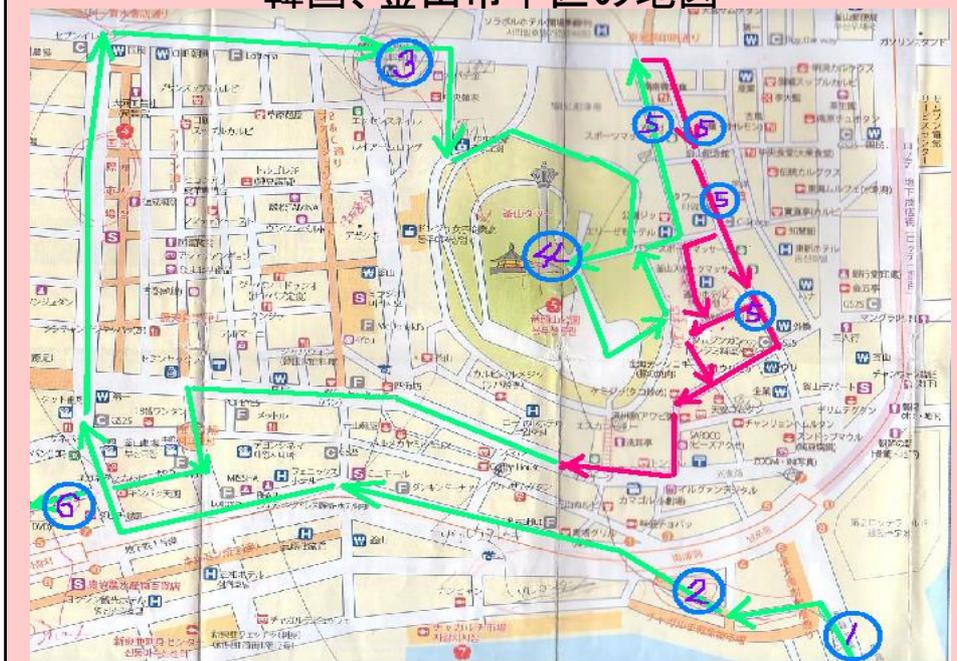
※日本建築の見分け方

1. 屋根瓦をラッピングしたものが多い(青い塗布剤、シート、タイヤを置く)
2. 庇、屋根の波風板、下見板張り、玄関ポーチあり、跡から張りまでのように張ったタイル張りや、煉瓦張り

タイムスケジュール

- 10:00 影島ホテルスタート
- 10:20~28 ①影島大橋(柱脚旧式、老朽化調査中)
- 10:35~11:00 ②チャガルチ長屋、乾物干し物市場(店舗付き住宅)
- 11:10 ③近代歴史資料館(東洋拓殖会社からアメリカ文化館)入館せず
- 11:20~12:00 ④竜頭山公園、釜山タワー(釜山の町並みを見渡す)
- 12:05 ⑤旧幼稚園跡、石垣
- 12:15~12:50 ⑤昼食(日本建築から韓定食レストラン)
- 13:15~13:25 ⑤仮称日本人通り散策(釜山観光ホテル付近)
- 13:35~13:50 ⑥チョンブンジャン、ソファンジャンアパート(コンクリート造アパート)危険物に指定、当初3階建てから4階へ
- 14:00~14:15 ⑦慶南道庁(裁判所から東亜大学法科学博物館)改修中
- 14:30~14:45 ⑧臨時首都記念館(李承晩大統領官邸)
- 14:50~15:10 休憩、東亜大学前道路の屋上(アジユマ; 元日本に住む敗戦後釜山へ)
- 15:20~15:45 ⑨貞蘭閣(邸宅をほとんどそのまま使用、韓定食レストラン)
- 16:15~16:45 ⑩韓国電力公社(韓国初エレベーター設置、B1~4階建て)
- 16:45~17:30 ⑪日本建築探し、日本式木造住宅らしいものあちこちに現存
- 17:30 日没終了

韓国、釜山市中区の地図



釜山の日本建築巡り スタート



釜山本土(手前)と影島 左手釜山大橋、右手が影島大橋(ヨンドダリ)

①影島大橋(跳ね橋)1 1931着工1934開通



1966年固定橋となる。撤去か保存か？2年余りの論戦の末、2009年6車線の跳開式に完工

①影島大橋2 橋脚部分



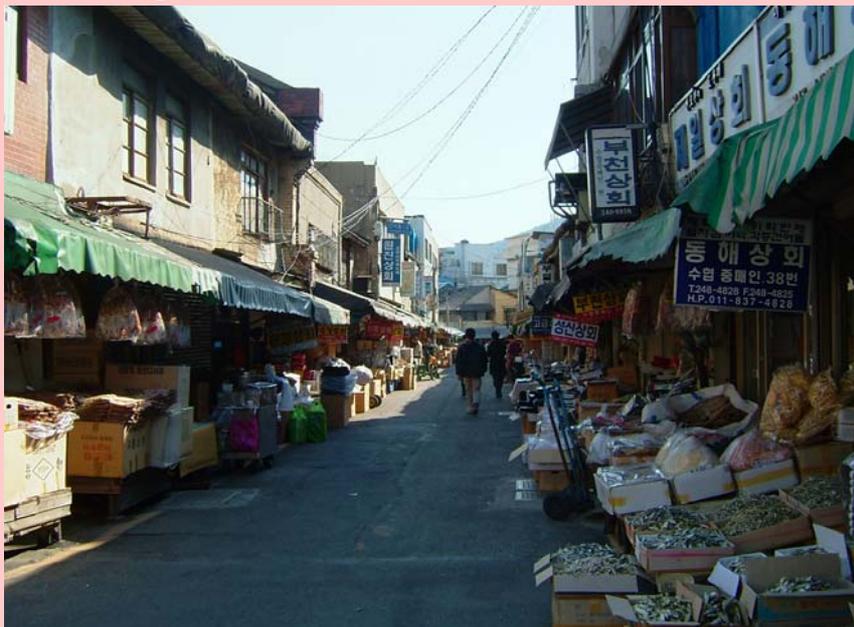
①影島大橋3 記念碑



①影島大橋4 跳ね橋当時を表す看板



②チャガルチ 乾魚物市場通り1



②チャガルチ 乾魚物市場通り2



②チャガルチ3 店舗付き住宅長屋



②チャガルチ4 店舗付き住宅長屋



②チャガルチ5 店舗付き住宅長屋



下見板張り、防火壁(延焼防止)



③釜山近代歴史館1 旧東洋拓殖会社釜山支店

- ・築1929年
- ・世界大戦後の1945年以降アメリカ駐屯地
- ・朝鮮戦争(1950~1953)時にはアメリカ大使館
- ・その後アメリカ文化院
- ・1999年韓国へ返還、2003年から近代歴史館となる



③釜山近代歴史館2 旧東洋拓殖会社釜山支店



④龍頭山公園・釜山タワー1



公園内には、釜山のシンボル釜山タワー（H120m）、李舜臣將軍像、花時計、鐘楼がある。この公園を中心とした場所は、1678年に開館されたと言われる草梁倭館があり、約500人以上の日本人が移住し、貿易、外交を行った日本人村があったという。

④釜山タワーからの眺め 1 1905都市計画の名残



④釜山タワーからの眺め2 旧西本願寺の跡



④釜山タワーからの眺め3 釜山気象庁



④釜山タワーからの眺め4 影島大橋方面



④釜山タワーからの眺め5



⑤仮称：日本人通り(中区中央洞～光復洞) 1



⑤仮称：日本人通り(中区中央洞～光復洞) 2



右側写真が韓国初の幼稚園が合った場所。
左側写真が、幼稚園の敷地の道路側にある石積みの擁壁

⑤ 仮称：日本人通り (中区中央洞～光復洞) 3



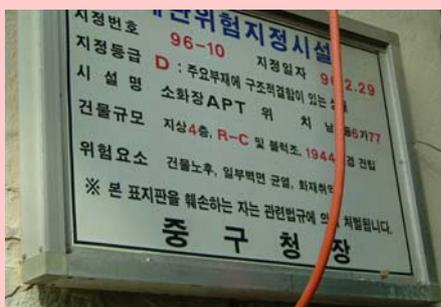
⑤ 仮称：日本人通り (中区中央洞～光復洞) 4



⑤ 仮称：日本人通り (中区中央洞～光復洞) 5



⑥ 釜山最初のアパート1 チョンポンジャン(1941)



⑥釜山最初のアパート2 ソファジャン(1943)



⑦旧慶南道庁 (東亜大学校博物館)



⑧臨時首都記念館1



1926年8月10日に竣工。
慶尚南道(キョンサンナンド)の知事官舎として使用。
第2次世界大戦後は、引き続き慶尚南道知事官舎使用から、朝鮮戦争当時、釜山が臨時の首都となっていた1950~1953年の3年間は、大統領の官邸(韓国初代大統領李承晩(イ・スンマン)大統領)として利用。
1984年に記念館に指定。

⑧臨時首都記念館2



⑨貞蘭閣(チョンランカク)1 1939築
(旧)鉄道庁長の官舎、レストラン



⑨貞蘭閣(チョンランカク)2 1939築



⑩韓国電力中釜山支店1 1932築
釜山初のエレベータ、近代オフィスビルの典型



⑩韓国電力中釜山支店2 1932築



⑪埋もれた日本建築を探して見る



⑫東菜(トンネ)別荘1 1929築



釜山一の富豪
迫間房太郎別荘、
木造2階建、屋
根は入母屋造り、
大庭園あり。

建坪約200、敷
地約3000坪。
米軍の軍政庁か
ら朝鮮戦争時は、
副大統領官邸。

その後は東菜別
荘と呼ばれる高
級料亭を経て現
在は宮廷料理を
出す高級韓定食
店。

⑫東菜(トンネ)別荘2 1929築



⑫東菜(トンネ)別荘3 1929築



報告書作成担当者

研究主査 小牧 重己

「福岡・釜山圏における日常交流圏の形成に関する研究」シリーズN o 3
釜山における日本建築物等の利用実態と評価に関する研究

－報告書－

2008年3月

財団法人 福岡アジア都市研究所

〒810-0001 福岡市中央区天神1丁目10-1

Phone 092 - 733 - 5686

E-mail info@urc.or.jp

URL <http://www.urc.or.jp>
